

第七回

まつり どうじ

「祭童子あつまれ」

らくぶん

楽文コンテスト

各賞受賞作品発表!!



主 催: **博多の風**

特別協賛: **NTT DoCoMo九州**

日本アイ・ビー・エム株式会社

協 力: 博多祇園山笠振興会、(株)毎日新聞社、
RKB毎日放送(株)、九州朝日放送(株)

選考委員: 波多江五朗氏 (博多祇園山笠振興会 会長)
武田芳明氏 (毎日新聞社 西部本社編集局長)
永守良孝氏 (RKB毎日放送 代表取締役社長)
沢田幸二氏 (KBC九州朝日放送 パーソナリティ)
大庭宗一 (NPO博多の風 理事長)

協賛: 西部ガス(株)、西日本鉄道(株)、(株)ふくや

福岡市、福岡市教育委員会、(社)九州経済連合会

後援: 福岡商工会議所、(株)岩田屋、九州電力(株)、九州
旅客鉄道(株)、(株)九電工、コカ・コーラウエストホ
ールディングス(株)、(株)西日本シティ銀行、西日本
電信電話(株)、(株)福岡銀行

第17号

平成19年10月発行

第7回

祭り童子あつまれ 楽文コンテスト 各賞受賞作品発表!!

博多祇園山笠振興会賞

- | | | |
|------------------|---------|-------|
| ■「三つの理由」 | 百道中学校2年 | 金 草緑 |
| ■「博多祇園山笠について」 | 百道中学校2年 | 西原 礼子 |
| ■「オイサー！」 | 箱崎中学校3年 | 稲盛 貴子 |
| ■「地域のお祭りから学べること」 | 箱崎中学校3年 | 小森 恵美 |
| ■「地域を結ぶお祭り」 | 箱崎中学校3年 | 中川 陽平 |

毎日新聞社賞

- | | | |
|-------------------|---------|-------|
| ■「うまれたときから山かさのほせ」 | 博多小学校2年 | 萩原 大雅 |
| ■「楽しかった子ども山笠」 | 博多小学校4年 | 平田 章仁 |
| ■「最後のどんたく」 | 博多小学校6年 | 金子 朋未 |
| ■「若手入り」 | 博多中学校1年 | 本田 祥久 |
| ■「山笠にかける思い」 | 博多中学校3年 | 敷田 恵 |

NTTドコモ九州賞

- | | | |
|--------------------|---------|-------|
| ■「こおりになりそうになった山かさ」 | 博多小学校2年 | 坪井 彩花 |
| ■「まちにまった山かさ」 | 博多小学校2年 | 村崎 玲南 |
| ■「はかたやまがさ」 | 板付小学校2年 | 宮崎 孝平 |
| ■「たくさんぬれたはっぴ」 | 博多小学校3年 | 田中 夏鈴 |
| ■「山笠七日間」 | 博多小学校5年 | 原田 彰吾 |

日本アイ・ビー・エム賞

- | | | |
|----------------|---------|--------|
| ■「おしりがつめたい山かさ」 | 博多小学校2年 | 植村 光征 |
| ■「にじを見た山かさ」 | 博多小学校2年 | 米田 汐 |
| ■「初めてのついぜん山」 | 博多小学校4年 | 橋本 はるひ |
| ■「私たちの山笠」 | 博多中学校2年 | 岡崎 菜菜子 |
| ■「私にとっての放生会」 | 箱崎中学校3年 | 山本 美咲 |

NPO博多の風賞

- | | | |
|--------------|---------------------|--------|
| ■「大好きなやまがさ」 | 福岡教育大学附属
福岡小学校2年 | 古賀 海輝 |
| ■「がんばったどんたく」 | 博多小学校3年 | 刈川 くるみ |
| ■「博多ぎおん山笠」 | 博多小学校5年 | 梅津 篤司 |
| ■「一年に一度の楽しみ」 | 周船寺小学校5年 | 金子 優希 |
| ■「放生会」 | 箱崎中学校3年 | 牛島 直輝 |

NPO博多の風特別賞

- | | | |
|----------------|--------------|-------|
| ■「2006年博多祇園山笠」 | 福岡雙葉学園高等学校1年 | 岡田 夏子 |
|----------------|--------------|-------|

博多祇園山笠振興会賞

三つの理由

●百道中学校2年

金 草緑

私が、小学生の頃まで住んでいた博多の町には、「山笠」という祭りがある。私は、その祭りが大好きである。その理由は三つある。

一つ目は、勢いである。山笠には、とても勢いがある。すごく熱い男の人たちの活気と熱意が、その勢いの源なのだろうと私は思う。一つ一つの流の山が生み出す、その勢いは、とてもかっこいい。山笠には、東流、千代流等と、「流」という言葉を使う。私は、それを波だと思っている。一つの山笠と大勢の人達作り出す、大きくて、勢いのある波が、とても勇ましいのだ。

二つ目は、山笠の歴史の深さと、山笠を代々受け継いできた博多の人たちのその心が素晴らしいと思うことだ。山笠の歴史は、何百年も前から始まっている。でも、それを今もなお受け継いでいるというのは、そう簡単なことではないと思う。今、この社会の中では、若い人達が中心の

社会を作り上げていっている。お年寄りの方は、そこまで中心にはなっていない。しかし、山笠の中では、若い人たちが、お年寄りを尊敬して、お年寄りの下に若い人たちがついていっているのだ。これは、博多の心の一つ「年輪尊重」に入るのである。これはとても大切なことだと思う。この事を山笠は忘れず、何百年も受け継がれてきたと考えれば、何か心に響くものを感じられた。

三つ目は、人々のお互いの相手への想いの素晴らしさだ。山笠は、男の人が出るものだという印象が強いはずだ。なのに、表には男の人達しか出ていないからだ。でも、山笠には多くの人達が、陰で支え合っているのだ。私は、小学校六年の頃、「ごりよんさん」というのを体験した。「ごりよんさん」というのは、主に山笠で走った後の男の人達に、おいしい料理をふるまったり、山笠で着たはっぴや手ぬぐいなど洗濯したりするなど、男の人達の奥さん達が中心となって、男の人達のお世話をするものなのだ。私は、この「ごりよんさん」を体験したのが一番、山笠を好きになった理由じゃないかと思う。それは、男の人達に料理を渡して食べている時に、「あー生き返った。本当においしい」

等という言葉を書いてくれるのだ。この一言を言ってもらうと、すごく大変で疲れているのも、いつのまにか忘れていた。そして、ごりよんさんはこう言うそうだ。「明日もしっかり走りんしゃい」こんな風に、山笠には相手への思いやりが自然と口に出てしまうものだ。一見、分らないようだけど、すごくすく深い人のつながりが、山笠にはあるのだ。私は、そんな魅力をもった「山笠」という祭りが大好きだ。そんな大好きな祭りから教えてもらった事を忘れず、生きていこうと思った。

博多祇園山笠について

●百道中学校2年

西原 礼子
ニシハラ レイコ

私は四年前から今年まで、毎年行っている祭りがありません。それは、博多祇園山笠です。四年前から父が出るようになり、三年前からは弟も一緒に出るようになりました。私は、見に行く前は全く楽しみにしていませんでした。けれど、実際に行ってみるとすごく迫力があり、とても感動しました。私は、こんなにすばらしい祭りをを行うにはたく

さんの人たちが関わっているのではないかと、という疑問をもちました。そこで、どんな人たちが関わっているのか調べてみることにしました。

調べてみると、たくさんの人たちが関わっていることが分かりました。山笠に参加している人、山笠の人形を作る人、山笠を広める人などです。山笠には七つの流があり、それぞれ流のある町内に住んでいる人が参加します。また、その町内に住んでいない人でも、町内の人から推薦されれば祭りに参加することができます。参加する人たちは、流ごとに同じ図がらのはつびを着ます。これは、流れごとの心をついにするためだそうです。

山笠の人形を作る人は、「博多人形師」とよばれています。博多人形師さんたちは、みんなに山笠を楽しんでもらうために、一年前からどんな飾りにするのか考えているそうです。またその飾りを、一ヶ月以上かけて作り上げるといことが分かりました。

山笠を広める人は、「博多祇園山笠振興会」とよばれています。この振興会は、七つの流の代表の人たちが集まって、今から五十年ほど前につくられたそうです。目的は、博多祇園山笠の伝統を守りさ

らに発展させることで、祭りがうまくいくように何回も話し合ったり、警察に道路を確保するためのお願いをしたりしています。実際に私は、信号が止まっているのを見たことがありません。また、振興会の人たちは、県外や外国に行き山笠をより多くの人に知ってもらい、見に来てもらおうと努力しています。中国の上海で山笠を見てもらったこともありますが、振興会の頑張りがあるからこそ、毎年九十万人の人が見物におとずれるのだと思います。

調べてみると、様々なことが分かりました。参加してなくても、陰で山笠を支えてくれている人がいること、参加している人は、自分の流を大事にしていることなどです。いろいろな人が山笠に関わり、みんな協力するからこそ、あんなにすばらしい祭りをしているのだということが分かりました。この伝統が、これからも続いていくといいな、と思いました。

オイサーー!

●箱崎中学校3年

稲盛 貴子
イナモリ タカコ

「オイサーー! オイサーー!」の勇

ましい掛け声とともに博多の町を駆けぬける山笠。兄が借りてきた山笠の本を目にし、山笠は身近な行事なのに私は何も知らないことに気付き、本を読んで山笠復興の経緯を学びました。

昭和二十年、戦局がだんだん悪くなり、福岡市でも六月十九日、のちに福岡大空襲と言われた大規模な空襲がありました。アメリカ軍の空襲は二時間も続き、福岡の風景は二変してしまいました。八月には終戦を迎えました。人々は空襲の恐怖からは解放されましたが、食料も衣類も、そして住宅も乏しいという現実に変わりはありませんでした。

この状況の中で、博多の人々は復興を目指し立ち上がりました。がれきの山だつた焼け跡を整備すべく再建をはじめました。当時は、戦争が終わったばかりで、いろいろなものが不足しているはずなのに、その中で立ち上がることの出来た博多の人々は、本当にすばらしいと思います。今は住む家も、食べるごはんも、着る服もあり、不自由なく生活しています。しかし、当時は、不自由なことばかりだったはずなんです。それでも博多の人々は山笠復興に向けて立ち上がったのです。もし、私だったら自分の家や食べ物、確保を優先すると思います。

しかし、当時の博多の人々は、山笠復興を優先するためにがんばったのです。私にはとてもまねできないと思いました。

やがて、博多の人々の努力が実を結び、本格的なものではなかったのですが、子供山笠ができるまでになりました。そして「オイサーー! オイサーー!」の勇ましい掛け声、がれきの街の中を駆け巡りました。本格的に復興したのは昭和二十三年。かき山が博多の街に立ち、祭りの行事も昔通りに復活しました。当時は、なおも貧しい暮らしが続いていましたが、四年ぶりの本格的な山笠の復活は人々に希望をもたらしたことでしよう。

今、こうして振り返ってみると、何気なく聞いていた「オイサーー! オイサーー!」の掛け声は、たくさんの方の懸命な努力を秘めているんだと思いました。この努力がなかったら今の山笠はなかったと思います。今までは山笠にあまり興味はなかったけれど、これからは真剣に見てみようと思いました。山笠は博多を象徴する祭りです。山笠を復活させたいという強い思いをうけついで、山笠がいつまでもたくさんの方々に元気を与えて欲しいと思います。そして、「オイサーー! オイサーー!」の掛け声、博多の町いっぱい響いて欲しいと願っています。

地域のお祭りから 学べること

●箱崎中学校3年

コモリ
小森 恵美

私がお祭りで思い付くのは「放生会」です。放生会は、毎年九月十二日から十八日に宮崎宮であるお祭りです。宮崎宮の参道にたくさんさんの屋台やお店が並びます。さまざまなイベントなども行われます。そしてこの放生会は「博多どんたく港まつり」や「博多祇園山笠」に並ぶ博多三大祭りの一つです。毎年百万人以上の参拝客が訪れるそうです。

私は、どうしてこの放生会が毎年行われているのか調べてみました。調べてみると、「放生会とは、万物の生命をいつくしみ、殺生を戒める神事。同時に、実りの秋を迎えて海の幸、山の幸に感謝をする」とともに、商売繁盛や交通安全を祈るお祭り」なんだそうです。私も含めて私達人間は、日頃から肉や野菜、魚などを口にします。でも、それはあたり前のことではなくて貴重な命を私たちが生きるために殺して食べているわけです。そう考えるととても可哀想になります。やはり食べないで生きていけなくなってしまうので、食べないわけにはいき

ません。だから、せめて私たちが生きていくために必要な食べ物には感謝していくべきだと思います。これからは毎日ではなくてもいいので、こうしたことを思い出して食べ物には感謝していきたいです。

私は「放生会」というお祭りにこういういろいろな意味があるとは知りませんでした。今までは普通に放生会にはどんな意味があるかということや、食べている物に感謝をするということなど考えたこともありませんでした。しかし、考えてみると深い意味もあり、大変興味がありました。

それに最近あった「人形かざり」というお祭りでは、地域の方がとてもたくさん協力し合って、子供たちがすごく楽しそうに参加していました。やっぱお祭りというものは、地域の方の協力が大きな支えになるんだということもわかりました。お祭りはそこに住んでいる人もそれ以外の人も皆が楽しくなくてはいけなないと思います。地域の人から「うるさい」や「迷惑だ」などと思われてしまったら意味がないと思います。だから皆が協力していけるようにしなければいけないと思います。

私は今回、放生会など地域のお祭りについて調べました。自分の住んでいる地域なのに

知らないことがたくさんあって驚きました。それにお祭りをすることは、地域の方が協力してくれることがとても大切だと思いました。だから、これからは、地域の人達とも協力していけるように努力していきたいです。

地域を結ぶお祭り

●箱崎中学校3年

ナカガワ
中川 陽平

「ワッショイ、ワッショイ」気迫あふれるかけ声とともに、男たちが二斉にかけ出した。博多祇園山笠だ。この行事は、毎年七月二日から十五日までの十五日間、中洲流や土居流、千代流といった八つの流に分かれ、大きな山笠を担ぎ博多の町を走り回るお祭りだ。最初は人気キヤラクターなどで飾った山笠を見せる「飾り山」から始まり、最後は全流でスピードを競い合う「追い山」で終わる。この博多祇園山笠は、七百年以上前から続くお祭りであり、子供から大人まで多くの人から人気を集めている。そのため、福岡の三大行事にも数えられている。

このお祭りのすゝいところは、迫力があるところでもあるが、僕は地域と密接に結びついているところだと思ふ。普通お祭りといえど大人が準備をして、大人がするところが多い。しかし、この博多祇園山

笠は違う。地域の男性ならだれでも参加できる。このため参加者が多く、いつ見ても活気に満ちている。さらに子供に体験をさせるために学校全体で参加する学校もある。僕はこのような地域全体で行うお祭りはとても大切だと思う。なぜなら、近年増加している誘拐や殺人といった犯罪を気にして、外で地域の人と話したりする機会が少なくなったからだ。その結果、地域の人の交流が少なくなつた。しかし、山笠のような地域でのお祭りは、多くの人といっしょにするために安心でき、なによりいろいろな人と交流ができる。このようにお祭りは地域の人たちと交流する機会を与えてくれる。

僕がまだ小学校のころは、みんな外で元気に遊び、地域の行事にもたくさん参加した。そのため、大人は僕たち子供の顔と名前を覚えて、子供も、大人の顔と名前を覚えていた。なので、会ったときは普通にあいさつをして、普通に話していた。しかし、今はどうだろうか。子供に声をかけようものなら、たちまち嫌な顔をされてしまう。あいさつをしても困った顔をされる。これは地域で安心して生活を送れないからだと思う。なのでこれを改善するためにも地域での交流の輪を広げる必要がある。この輪を広げるのがお祭りだ。

今僕たちが住んでいる箱崎も、昔から多くのお祭りが伝わっている。やはりこれも、地域の人たちが

みんなが参加し、みんなをつくりあげてきた文化だと思う。お祭りでは、その地域の人たちの心のあたたかさを映し出す鏡のようなものではないだろうか。

毎日新聞社賞

うまれたときから
山かさのぼせ

●博多小学校2年

ハギワラ
萩原 大雅

オギャー！へいせい十一年七月十七日、ぼくがたんじょうした日。ぼくは二才のころから山かさに出て六年かんやっている。山かさのこと

はなんでもしっています。おしおいとりは、ならやからはこざきまでぜんぶぼくの足でがんばってはくれました。そして、山かさがかうごく日、ぼくはまだ二才だから、からだがいよいよころだった。みんなといっしょに山かさのまえをはしっていたので、みんなのおかげでぜんコースはしりきれたので、とてもうれしく、ぼくはとてもかんしゃしています。

そして、六回目のことし山かさは、五番山かさまでひよ

うだいは「太閤再興之下知」でした。ぼくのおとうさんは左かた三番ほう台下をかついでました。とてもかっこよかったです。

三十四秒四四のタイムでした。

ぼくも、大人になったらおとうさんのタイムよりはやくかつげるようになりたいです。そのためまいにちがんばってごはんをいっぱい食べて大きくくなります。

楽しかった子ども山笠

●博多小学校4年

ヒラタ アキヒロ
平田 章仁

今日は、いよいよまにまに山笠です。ぼくは、四年生だからあとおしです。あとおしは、一番じゆうような事です。だからかくごの上で山をかきました。一日目最初はきつかったけど、だんだんとなれてきて、ふつうにできるようになりました。そのなかでも一番楽しかったのは、いちばん前でおすことです。一日目の山がおわると、ごりよんさんの人たちが、ぶたじるとおにぎりを作ってくれました。とってもおいしかったです。

二日目は、おう鳥がんかの

てまえのどう路からかきだしました。おしておしておしてやっとなり神社につきました。そして一番もりあがるくしだりです。一回グルーッと一周して山につきました。一分前、三十びょう前と、タイムがせまってきます。十びょう前、五びょう前、四、三、二、一、ヤー！かけごとともに、櫛田いりのコースをまわりました。まだ心が一つになっていなかったから、一分すぎました。先生の言葉で気合が入り、心をひきしめて山につきました。二回目は三十五びょうでした。そして、二日目さいごの櫛田いりです。体ぜん体に力をいれて山につきました。かけごとともに山がうごきました。そして、二日目のさいごのきろくは、二十八びょうでした。とってもうれしかったです。その後、川ばたしよう店がいを回って学校に帰りました。一日目よりコースがながくて、てこずったところもあったけど、とっても楽しかったです。

そして子ども山笠のさいしゅう日、ぼくは全力でとりくみたいと、心のそこまでかんじました。いよいよ山がスタートしました。櫛田神社まで全力で山をおしました。やっとなり神社までたどりつきました。なんととしてでも去年の

タイムの二十二びょうをこさなければなりません。それを頭に入れて山をおしました。最初は五十六びょうでみんなの心が一つにまとまっていまんでした。二回目は三十二びょうでした。そして、ないてもわらつても子ども山笠さいごの櫛田いりです。気合の声で目がさめたかのような気もちで山につきました。じかんがすぎ、いよいよ五びょう前、四、三、二、一、ヤー！かけごとともに山がうごきはじめました。そして、くろうしてでたきろくが二十七びょうでした。きろくもたいせつだけど、みんなのきもちが一つになることが一番大切なので、とってもうれしかったです。

最後のどんたく

●博多小学校6年

カネコ トモミ
金子 朋末

大好きな博多どんたく港まつり。私は一年生のころからこのお祭りに「博多の町ちびっ子どんたく隊」の一人として参加してきました。五月三日から二日間行われるパレードに向けて四月から練習をかさねます。

「あなた達が笑顔でおどると、

見る人の表情も明るくなりんしゃあよ」おどりを教えてくださっている、しのひろ先生の言葉です。他にも、手を大きく、後ろの人にも見えるように表現すること。列になっておどる時や輪になっておどる時には、前の人との間を考えてとること。そして、最上級生である私達は、一年生などの下級生におどりを教えたり、みんなのことを考えて心配りをする事等、多くのことを習いました。一年生のころからお世話になってるしのひろ先生は、優しく、おもしろい方です。いつもにこにこ笑顔で私たちに話しかけてくれます。「おばあちゃん、元気しとんしゃあね」これは、しのひろ先生が私にいつもかけてくれる言葉です。しのひろ先生は、こんなふうには、私達一人ひとりに優しく声をかけてくれます。私達は、そんなしのひろ先生に教えて頂いて、本番のパレードに向けてがんばりました。

六年生になった私は、今年で「ちびっ子どんたく隊」をやめなければいけません。だから私は、最後のどんたくを思いっきり楽しもうと思っていました。午前中は博多の町をまわり、拍手をたくさんもらってとても良い気持ちになりました。午後はいよいよパ

レードです。あつというまにスタートしました。私は先生達の後につながる子ども達の先頭です。道ばたで見ている皆さんの人達には、なれていました。でも先生達との間が広がってきて、私は少しあわてました。すると一番前にいたしのひろ先生が、いつの間にか私のすぐそばに来て、「間をつめんしゃい」と言ってくれました。私は走って追いつき、また安心しておどりを続けることができました。市役所まで来ると、とうとうゴールです。到着点では、たくさんの方の拍手でむかえられ、私は「もうこれで最後なんだなあ」と、少しさみしくなりました。

学校に帰りつ着くと、総おどりで、グラウンドに大きな一つの円をつくって、百人ぐらいでおどります。私は、この総おどりが大好きです。お手伝いをしてくれたPTAの方や、男の先生達も一緒におどります。つかれも忘れて、みんながニコニコ楽しそうにおどります。私は、最後のどんたくを楽しんで終えることができました。

「このどんたくは、私達の博多の町にずっと続いている大事なお祭りです！」私は、閉会式で、六年間の思いをしっかりと後輩達にたくしました。

若手入り

●博多中学校1年

本田 祥久

僕は、今年の山笠を一番楽しみにしていました。その理由は、今年から中学生になったため、子供から若手になったからです。小学生の時は、招き板を持って山の前を走るだけでした。しかし、若手になると、ほとんど大人と同じ扱いになります。若手は、山につけて後押しもでき、また、他にも沢山の仕事があります。仕事は大変だけど、町内の人に色々教えてもらい、一つ一つ覚えていきました。

七月一日、山の準備が始まります。朝早くから榊田神社にお祓いを受けに行き、その後、町内に戻り山の準備が始まります。この時、取締の人が僕の肩をたたき、「若手がんばれ」と言われたのを覚えています。

結界をつけたり、竹を立てたり、電柱に縄を巻きつけたり、この時僕はこう思いました。「こんなに沢山の準備を今までやっていったのか」と。「でも、今年から若手になったんだし。自分もしっかりがんばろう」と。

七月九日、この日はお汐い取りとって箱崎まで走って

いき、汐を取りお祓いを受けます。戻ってくると、子供は帰りますが、若手は榊田神社まで行きお祓いを受けます。今年七番山で一歩遅いので、帰ってきた時は九時を過ぎていました。戻って来たとき、自分でも「よくがんばって走れた」と思いました。

七月十日、ついに山が動き出します。今年から僕も山をかくことができます。山が動き出しました。「オイサ、オイサ」

耳元で大きな声が聞こえます。最初は後押しから入りました。でもなかなか上手に押すことができません。後ろの人たちの力がとても強いのです。すぐ抜けて山の後ろに回りました。「こんなに押しにくいのか」

突然取締の人が僕を呼びました。「三番に入れ」

初めての山は、僕の肩にがっしりと食い込み、飾りの重さが全部自分にのしかかってきた様でした。そのときの感動は今でも忘れられません。

七月十五日、いよいよクライマックスの追い山です。この日は、台風と重なり雨と突風の中で始まりました。四時五十九分、たいこの音と共に一番山が勢いよくスタートしました。二番三番と続いていき、ついに僕たち七番山恵比

須流の番です。「今日で最後だ。少しでも山に近づき、高のかき方で締めくくるぞ」冷たかった体が熱くなってきました。

「五秒前、三、二、一」「ヤー——」

山笠にかける思い

●博多中学校3年

敷田 恵

今年もこの博多の町に力強いオイサ、オイサのかけ声が響きわたりました。このかけ声といえば、博多山笠です。山笠は長い歴史をもつ、博多の伝統行事です。

山の男達がかけ声を出して動き出すのは、七月一日の当番町のお汐いとりからです。実際に山笠が動くのは十日からですが、かけ声だけでも充分迫力があります。十日から山をかつぎ、十五日の最終日には、五キロという長い距離を走ります。十五日は、追い山といわれています。これは、榊田神社の清道をまわるタイムと、全コースのタイムを計ります。清道をまわるタイムは八つの流の山笠で競われ、全コースのタイムは七つの山笠で競われます。数が違う理由は、川端商店街に飾ら

れていた飾り山が、榊田神社をまわるからです。また、榊田神社をまわる時、その年の一番山は「祝いめでた」を歌います。

今年の山笠は、今までにならぬことにはなかつたそうです。また、その台風の接近により、十五日の前、十四日の夜には、野外の飾り山は取りはずされました。台風の影響は十五日の追い山にもでました。榊田神社の前で、時がくるのを待つ男達に冷たい雨が落ちてきました。それは、朝方だったので、気温も低かつたです。

見に来ている人もかさをさして見るようになりました。しかし、見に来る人は多く、山笠も盛り上がりました。

私は、今年の山笠で、今までに見たことのないものをたくさん見ることができました。台風の中の山笠は、もう見ることができないかもしれせん。それに、山笠に思いをのせている男達が、冷たい雨に負けずに走っている姿は忘れられません。私は、改めて山笠のすばらしさに気付かされたような気がします。このような山の男たちの思いと、情熱が、山笠が長く続けられていることにつながっているの

ではないかと思いました。

私は、この博多で十五年すごしてきて、山笠があるのはあたり前という気持ちがありました。しかし、今年の山笠をみて、あたり前ではなく、この町の人と、見にくる人がいてきているものなんだと気付かされました。これから山笠という伝統が、博多の町に残り、男たちの情熱が多くの人に伝わればいいなと思います。そのためにも、今生きている私達が山笠を支え、頑張っていかなければならぬと思います。

NTTドコモ九州賞

こおりになりそうになつた山かさ

●博多小学校2年

坪井 彩花

「さむいよ」と思わずいってしまいました。雨と水がかかかって、とってもつめたかったです。わたしが通っているのかた小学校では七月に山かさがあります。みんなつかれてわたしも足がいたい、といっ

つてはしりました。かえって
きたらすぐにきがえました。
おうちにかえったらすぐにお
ふるにはいりました。おふる
の中にずっと入っていると、
あたたかくなって、こおりに
なった体がとけていくように
した。おふるからあがると、
いつものように元気な体にも
どっていました。おふるパワ
ーはすごいです。それからこ
はんをたべました。とつても
さむくてつかれるけど、来年
も山かさをがんばろうかなと
おもいました

まちにまつた山かさ

●博多小学校2年

村崎 玲南

「オイサーオイサー」

まちにまつたやまかさです。
みんな楽しそうに、山のあ
とをはしっていききました。オ
イサーオイサーと言いながら
はしっていききました。でも、
とちゅうで、あしがいたくな
ったひともいたと思います。
でも、みんなとてもはしる
のを、がんばっていました。
おとな山もでたひともがんば
っていました。

みんなはか多の町をはしっ
ていました。早足をしたり、

みんながんばっていました。
土曜日も日曜日も金曜日も、
足をけがしても、がんばって
いました。

はかたやまがさ

●板付小学校2年

宮崎 孝平

ぼくは、赤ちゃんのときか
ら山笠にさんかしています。
山笠は七月になるとはじま
ります。

ことしも七月にぼくは、さ
んかしました。

まず、「おしおいとりに
でました。しゅうごうばしょ
で、たいこをたたきました。
みんながあつまるように、大
きな音になるようにたたきま
した。たいこの音でみんなが
あつまってくれたので、たた
いてよかつたなと思いました。
はこぎぎうまでおしおいと
りに行きました。

つぎは、「しゅうだん山見
せ」にでました。ことしは、
ぼくがでる土いながれは一ば
んにはしります。土いながれ
の人形の名前は、「ぎじんゆ
うありものふのころ」で
した。ぼくたち子どもは、さ
きばしりといって、山の前を
はしります。しやくしよまで
はしっていききました。きよい

水をたくさんかけてもらって
きもちよかったです。ぼくは、
「オイサーオイサー」といいなが
ら、力いっぱいはしりました。
さいごの「おい山」の目が

やつてきました。台風四号の
ためどうなるか分りません
でした。はしるかざり山いが
いは、てつきよしてました。
くしだじんじやと上川端通り
がてつきよされなくて、よか
ったと思いました。ぼくは、
十五日の朝は、一時におきて
じゅんびしました。二時がし
ゅうごう時間でした。たいこ
の音が聞こえたので、しゅう
ごうばしょに行きました。今
日はしる道をみんなでかくに
んして、かき山のところまで
オイサーというかけごえで行き
ました。ぼくも力いっぱいこ
えをだしてはしって行しまし
た。

いよいよ「五びよう前」と
言うこえが聞こえてきました。
ぼくは、「いよいよはじまる。
さいごまではしるぞ」と思い
ました。「三、二、一、ヤー」
といっはしりだしました。
土いながれは、一ばん山なの
で、くしだじんじやのせいで
うのところ「いわいめでた」
をうたいます。ぼくたちもさ
きばしりをして大きなこえで
うたいます。

ぼくは、はじめてまわり止
めまではしりました。いっし

ようけんめいにはしって、と
てもきもちよかったです。
ことしの土いながれのくし
だいのタイムは三五秒〇九
でした。

らいねんもぼくは、山笠に
さんかして、くしだいのタ
イムを早くしたいです。
ぼくは、毎年山笠にさんか
して、つよい男になりたいで
す。がんばります。

たくさんぬれたはつび

●博多小学校3年

田中 夏鈴

水をかぶって走っていくの
もさいごになったときは、つ
めたい風がふいたり雨がふつ
たりして、みんなブルブルふ
るえてました。そしてずっと
走っていくと、ちいきの人た
ちやいろいろな人がいて、お
うえんしてくれたりしてくれ
ました。

いっしよに走ってくれた人
やおうえんしてくれた人がい
るから、さいごまでがんばれ
ることができました。

さいごの走る日は、みんな
で走ってさいごのゴールまで
がんばって走ったことです。
さいごの日は、長い時間走
ってきつかったけど、みんな
と走ったりしたからできまし

た。

六年生の人たちや五年生の
人たちもおうえんしてくれて、
それいいにもおうえんして
くれたから、さいごまで走れ
ました。

おうえんしてくれた人は、
「がんばれ」

とか言ってくれました。
さいごの日は、みんなであ
って、いろいろな場所をお
ってみんなでさいごまで走り
ました。さいごまで走ったら、
またさいしょの場所にもどっ
てみんなであつてもどりまし
た。

さいごのときに、みんな
でゴールのところまで走って、
きつかったけどいろいろな人
とさいごのところまで走りま
した。いっしよに走ってくれ
た人たちやおうえんしてくれ
た人がいて、みんなと走れま
した。

みんなといっしよに走って
さいごのところまで走って、
おうえんしてくれる人たちも、
さいごのところでおうえんし
てくれました。みんなでさい
ごまであきらめないで走って、
ちいきの人たちも、みてくれ
たりしてくれました。

一人じゃないから、さいご
まであきらめないで、さいご
までがんばって走れました

山笠七日間

●博多小学校5年

原田 彰吾

「三、二、一、ヤー」
西流の山笠が動き始めた。小学生以下は山笠が清道を走るところは見れなかったが、山笠をかいている人のしんけんさが伝わってきた。

博多の伝統行事といえば山笠だ。ぼくは、ようち園の年長のころから山笠に出ている。そのころは少ししか出ていなかったが、今では毎日出ている。ぼくの町は、西流の冷泉三区だ。

九日のおしおいとりでは、長いきよりを走るし、水を浴びないから暑いけど、走り終わったら、たっせい感があった。朝山では、早起きしたけど、走っているうちにねむ気がふつ飛んだ。追い山ならしでは、四キロメートルのコースを走った。集団山見せでは、天神まで行き、多くの人に山かさの楽しさを伝えた。山笠最終日の追い山では、五キロメートルのコースを走った。今年の追い山の日は寒かったし、五キロメートルのコースを走るのはきつかったけど、走りきったら、たっせい感でうれしかった。ぼくが山笠で楽しいことは、長いきよりを他の小学生以下の人達と走ることと友達になれることや、七日間すべてのコースを走りぬいて、たっ

せい感をあじわえることだ。特に仲良くなれた人は、まねきをいっしょに協力して運んだ人だ。

まねきを持ちながら走るのきついつから、まねきを回して行きながら走った。七日間すべてのコースを走りきった時は、「本場に終わつたんだな」と思った。

この作文では、ぼくの山かさの楽しさを書いたが、人によって山かさの楽しさはちがうと思う。これから山笠に出て、山かさのちがう楽しさを見つけたら、山笠にしろ。でも、来年になればぼくは六年生になり、学校でもいそがしくなるだろう。でも、いそがしい学校に行きながら出る山笠こそ、最後の追い山のコースまで走りぬければ、たっせい感が大きいかもしれない。

日本アイ・ビー・エム賞

おしりがつめたい山かさ

●博多小学校2年

植村 光征

「つめたい」
はか多小学校の子どもは、一生けんめい山かさをかっ

で、はか多小学校から、くし田神社まで走りました。

ぼくは、こんなにたくさん走ったことはなかったし、それに雨もたくさんふっていたので、「だいたいようぶかな」「走れるかな」と思いながら走りました。いろんなところから、いきおい水をかけられて、おかあさんのおうえんの声や、みんなのかけ声でほくにちからがでてきました。そして、六年生のおにいさんたちがいっしょけんめい大きい声をあげて、がんばっているすがたを見て、ぼくもがんばろうと思いました。

にじを見た山かさ

●博多小学校2年

米田 汐

「すごい」

山かさの中で、にじを見ました。ぼくの知っているにじは、空にでる大きなにじです。山かさでは、かつぎながら走っている時に、水をかけられます。

「うそーなぜ道ににじがあるの？」と、びっくりしました。だから、友だちにも教えませんでした。

ぼくは、大人の山かさの時も「道に小さいにじはでるのかな？」と考えていたら、思った通りになりました。二回とも晴れたので、だからにじがでたと思います。

ぼくの大すきな山かさの途中でにじを見たから、さいこの山かさでした。来年は、山かさの途中で空を見たら、大きなにじがあったらいいと思います。

初めてのついぜん山

●博多小学校4年

橋本 はるひ

わたしは、七月十三日金曜日に、おじいちゃんのついぜん山を体験しました。須の一人の人が、うちの前にきて、「いわいめでた」という歌をうたいました。そして、須の一人の人が、おがんでいきました。

ついぜん山とは、長年山笠のはつてんにつくしてなくなった人をお礼に、おまいりにくることです。

わたしは、はじめどんなことをついぜん山にするのだろう、と黙って、ついぜん

山のこと、なにも知らなかった。初めてけいけんした時は、「こんなことをするんだな」と思いました。

さいだんの上には、おじいちゃんの写真や、ビール、くだもの、当番ハッピなどがかざられていました。

おじいちゃんは、須崎町一区の当番ハッピをデザインして、かんしやじょうをおくらに思っています。

はじめの前、家族みんなでおぼあちゃんです。目からなみだが、一つぶ一つぶあふれだして、だまりこんでしまいました。もうなみだがとまらないほどでいていました。やっぱり、とてもみぢかな人がなくなつて、おもいだしたら、とてもかなしくなるから、おぼあちゃんも、おじいちゃんのことをおもいだしてしまふのかもしれない。そして次に悲しそつだつたのは、おじいさんとおかあさんです。二人にとつて、おじいちゃんはその父であり、とてもそんけいしているからこそ、おもいだしてしまつて、かなしいんだと思います。気づけば、わたしもなみだがとまらないほどでいていました。おじい

ちゃん笑顔と笑い声が頭の

なかにうかび、とてもかなしかったです。

「ついせん山をおえて、
しいものなんだ」
と思いましたが。でも、おじいちゃん天国でうれしそうにみていると思いいました。

とても悲しかったけど、とても良いけいけんになったな、と思いました

私たちの山笠

●博多中学校2年

岡崎 オカザキ
菜菜子 ナナコ

「オイサツオイサツ」

今年もあの力強い声が博多の町を駆けめぐる。今年もついにやってきた。博多の町に夏の訪れを早々と告げる男衆の熱い風がふき始めた。

七月上昇！もうこの時期になると博多は山笠一色に染まってくる。学校の会話の中にも山笠の話で盛り上がる。

「今年が一番山って何やったっけ？」

「えーっと去年は恵比須やっただけ、今年は大黒やない？」

などなど聞いているだけでもワクワクしてしまう。私達の中学は、学校全体で地域行

事で取り組む。故に、先生方も全員参加だ。いつもジャージ姿の先生も、水法被がなんだか似合う。男子は学校の授業なんて三、四時間目になると、さっさと山笠のために帰ってしまう。残った教室は女子ばかり。山笠期間中は男子の山笠のための早退だ、当たり前だ。このように町も学校も山笠一色だから山笠バカになるのもうなづける。

でも山笠の一番の見せ場は七月十五日にある追い山だ。朝の眠い雰囲気をおき飛ばすあの気負いと朝の暗闇に響き渡る男衆のかけ声。これぞ私の好きな山笠だ。一年に一度の好きな勝負かけて男衆は走り重さ一トンもある山を担いで。私も十五日の本番は見に行つた。その日はどしゃぶりの雨で人は少なくて、前の方で見られるかなと思つてた。しかし、それは大きな間違いで、大博通りは人で埋まっていた。後ろを見ると、路地に車が止つてた。ナンパーを見るとなんと「大阪」。私はおどろいてしまった。そういえば、さつき山口ナンパーの車も見

たし、飾り山の写真を撮っている外人さんも見た。こんな朝早くに他県からも、山笠のためにわざわざ来る人がいるなんて驚いた。私達が大切にしている行事を他の県の人達が見に来ていると思うと何だかうれしくて、山笠がとても誇らしくなった。なんだか今年の山笠はいつもより大きく見えた。男衆はいつもより勇ましく見えた。いつもより山笠が好きになれた。

今日感じた事は忘れてはならないと思う。今まで山笠という、博多の人の事しか考えてこなかった。しかし、周りを見渡すと、山笠を楽しみにしているのは博多の人ばかりではない。他の県、他の国の人々までもが山笠を見てくれている。それはきつとすごいことだ。こんな多くの人から愛される山笠をなくしてはならない。それはこれから山笠を受け継いでいく私達へのメッセージかもしれない。私は久々に伝統のすごさを感じ取つた。これからは山笠は走り続ける。多くの山笠を愛してくれる人のために。

私にとっての放生会

●箱崎中学校3年

山本 ヤマモト
美咲 ミサキ

私の住んでいる箱崎ではたくさん歴史のある祭があります。たくさんあるなかで一番私と関りが深い祭は「放生会」です。

「放生会」とは、元来、殺生を禁じる仏教の教えに基づき、生き物を自然に放して功德を積む行事とされている。博多の三大祭のひとつにも数えられ、参道には七百あまりの露店・見せ物・興行が軒を連ね、そのにぎわいは七日七夜つづきます。

箱崎や、その周辺の地域に住む人達にとっても、放生会の一週間というのとても楽しみにされている期間です。

そんな放生会ですが、私は皆と少し違う生活をする一週間でもあります。

私の父は宮崎宮の神主をしています。先ほども書きましたが、放生会とは簡単に言うと「生き物の命を大切にする敬う」期間です。なので宮崎宮に携わる人間として私の家では一週間、肉を食べません。なので、放生会の露店でも、フランクフルトやケバブなどは食べません。友達と行って友達に食べていても食べたいと思つたことはありません。もちろん給食も肉が入っているのは残します。もったいない、と思うかもしれませんが、私は一週間、肉を食べないことによって普段私たちのために命をおとしてくれている生き物たちに

感謝の気持ちをあらわしているつもりです。それに、本来放生会期間中は、生き物の殺生をつつしむ、という期間でもあります。

私は、父が宮崎宮の神主をしていなければ、小さい頃から放生会の本当の意味を知ることがなかったと思います。そんな素晴らしい祭なんです。最近、少し祭の趣旨を勘違いしている人が多いのではないかと思います。露店の並ぶ参道には、たくさんさんのゴミがちらかっている、夜中まで騒ぐなど、楽しむのは良いと思いがすが、マナーは守ってもらいたいです。

私は、この作文を少しでも多くの人に読んでもらい、放生会のことを知ってもらえたら、と思います。そして放生会に行ったら、露店を見るだけでなく、宮崎宮の御本殿まで行って「二礼二拍手一礼」をして、生き物に感謝をしてほしいと思います。そして私はずっと後の世代にも、これを語り継ぎたいです。

NPO 博多の風賞

大好きなやまがさ

福岡教育大学附属福岡小学校2年

コガ
ミツキ
古賀 海暉

「おつしよい、おつしよい」は、やまがうごかないときのかけ声。

「おいさつ、おいさつ」は、やまがうごくとときのかけ声。

「はか多手一本」

はか多きおんやまがさは、きまりごとがいつばい。

大きな声を出しながら、たくさんはしってきついとがいつばい。

でも、ぼくは、やまがさが大好き。

だって、一ばんじゅうお友だちとあそべるから。

くしだいのときは、ヒーローになった気分になれるから。

大人になっても、ずっとやまがさに出たいな。

がんばったどんたく

博多小学校3年

カリカワ
クルミ
刈川 くるみ

わたしは、どんたくに出ました。れんしゅうが始まったのは、四月十二日です。わたしたちに、おどりをおしえてくれた先生は、はなやぎしのひろ先生です。ほんばんにある日は五月三日です。そのあいだに、れんしゅうをします。

一日目、四月十二日から、五月三日までしかれんしゅうができませんと聞いて、「だいたいようぶかなあ」と思いました。どんどんれんしゅうをして、どんどんみんなも、じょうずになっていつて、わたしも「もつとじょうずになるう」と思いました。

でも、どんどんれんしゅうをしているとき、先生が、れんしゅうにこれなくなりしました。でも、六年生のみんなやお母さんたちが、生みたにおしえてくれたり、まちがついているところをやさしくおしえてくれました。だから、じょうずになりました。

曲は三曲あります。その名前は「ありがとう」という曲と「どんたくばやし」と「どんたくサンバ」です。

「どんたくサンバ」は元気が出てくる楽しい曲です。「どんたくばやし」は、しゃもじをもっておどります。歌がついているのでおもしろいです。でも、曲が長いから、手がいたくなったり、手がつかれたり、ときどき自分の手をたたいてしまうこともありました。「ありがとう」も、曲が長いから、れんしゅうでつかれることもありました。「ありがとう」は、はたをもつておどります。曲は長いのに、二ばんまであります。それで、どんどん家でもれんしゅうをしてました。れんしゅうのときから、ほんばんに使うはたは使えないから、自分たちで作りました。さいごのれんしゅうが始まりました。グループを決めて、グループでおどりました。そのあと、一グループずつにおどりました。どのグループも、じょうずにおどれていました。次にわたしたちのグループです。ぜんぶわたしは、ま

ちがえないでおどれました。ほん番に「このおどりを見せたいなあ」と思いました。「ほんばんにはがんばろう」と思った。

ほん番です。お母さんたちに、ゆかたをきせてもらっておどります。コースは、

しんぐうまつひこさんの前でおどりました。でも、途中で曲がきれたからびつくりしました。次に、わたしの家のちかくの前にホテルがあるところの前でおどりました。まんじゅうやお茶をくれました。次に、さくら園にいつておどりました。その次は学校に帰って、みんな一回おどつてきがえしました。わたしは「むりと思つていたけど、がんばつたら、なんでもできるんだなあ」と思いました。

博多きおん山笠

博多小学校5年

ツバメ
アツシ
梅津 篤司

ぼくは、今年も博多きおん山笠にでました。ぼくが参加している流は、東流です。東流には万四郎神社があります。この神社には、子どもの神様がまつてあります。

毎年七月十一日の朝山に、いつもは大人が台上がりをしていきますが、この日だけは子どもが台上がりをして、万四郎神社に山を持っていくのです。この台上がりにぼくが選ばれました。

山笠を神社の前で止めて、

山笠の台に上がると、東流の代表取りしまりが各町内と名前を次々に読んでいきます。

「北船町、梅津篤司どの」ぼくの名前をよばれた時は、すごいきんちようしました。でも、「はい」と大きな声で返事をしました。全員の名前を言い終わると、山が動きだします。

ぼくは、「オイサツ、オイサツ」と大きな声を出しながら、両方のうでをふるります。

かきぼうの方を見ると、お父さんと北船町のお兄さんたちが山をかいていました。すごいと思いました。

ぼくが、しょう来大人になった時、自分の子どもや町内の子どもたちが台上がりをする時は、お父さんみたいに山をかきたいとおもいます。また来年も万四郎神社で台上がりをして、いい思いをつくらたいのしい博多きおん山笠にしたいと思えます。

一年に一度の楽しみ

周船寺小学校5年

カネコ
ユウキ
金子 優希

七月七日に周船寺の祭り、

お汐井取りがありました。

お汐井取りは、周船寺町内に住んでいる人達が参加するお祭りです。夏の伝せん病、風水害、豊年満作などをいのって、三百年あまりの間行われているそうです。はつびを着、わらずとを持ち、おみこしをかついで、伊観神社から今宿海岸まで「わつしよい、わつしよい」と言いながら走ります。はつびには、周船寺の「す」の字が書かれています。おみこしは、周船寺三町内につずつあり、各町内の子ども会がかざりつけをし、子どもがかつぎます。今年はおみこしもつかつぎました。

わたしがお汐井取りで楽しいことは、走っている時に水にかかることです。お汐井取りでは、走っている時に、家やお店の前で、勢い水をかけてくれます。暑い中走っているのも、水は冷たくてとてもきもちいいです。

もう一つ楽しいことがあります。それは、今宿海岸で、わらずとに海草をまくことです。今宿海岸で、海に入ることもできます。海岸に海草があるので、それを、わらずとにぐるぐるとまきます。わらずとは、その名の通りわらずでできています。

下の方は太く、上の方は細くなっています。お汐井取りの前日に、地いきの人達が作ってくれます。

今宿海岸まで走ったら、また伊観神社にもどります。伊観神社に着くころには、夜になるので暗くなっています。だから、大人の人が、たいまつに火をつけて走ります。夜でも家やお店の前で、待っていてくれる人がいるので、うれしいです。

伊観神社に着くと、はつびも、ズボンもくつもびしよびしよにぬれて重たくなっています。でも、毎年あるこのお汐井取りは、とても楽しいです。わたしは、一年に一度しかない、お汐井取りが来るのをとても楽しみにしています。

放生会

●箱崎中学校3年

牛島 直輝

放生会は僕にとつて、祭りの中で最大であり最高なものです。なぜならば、放生会とは長い歴史を持ち今現在でも受け継がれているからという理由が一つと、屋台の数が多すぎてあきないし、一度じゃまわれない

から「次の日も来よう」という気持ちにしてくれて、なおかつワクワク気分になるからです。

屋台では、わたがし、りんごあめ、いちごあめ、ひよこあめ、いかやき、やきとり、おめん、お化け屋敷、見せ物や、焼きとうもろこし、かたぬき、生姜、ちゃんぽん、おはじき、うめがえもち、くじ引き、少し屋台をあげているだけでもきりがなく、くらい多いです。

その中でも僕が一番多く利用しているのは、かたぬきとりんごあめです。なぜならば、かたぬきはきれいなかたがとればお金になり、他の屋台で遊ぶはんいが広くなるし、かたがとれなくても、お菓子として食べられるし、何より放生会の屋台の中でも、一番熱中してやりがいがあるからです。りんごあめを利用するのは、自分が食べても幸せになれるおもしろさだし、人にあげても一番喜んでくれる食べ物だと個人的に思っているからです。

何より自分が自慢に思っていることは、放生会という大イベントが箱崎であっていることです。僕の家から行ってもすぐつくし、友達の家に行くときさらに近く

なり、帰りもスムーズに行けるし、毎日だつて来ることもできるからです。この条件があるからこそ、僕にとつての放生会は最大であり最高です。

毎年あつている放生会は、僕にとつて一年がまちどおしいものがあります。それは僕だけじゃなく、まわりの人と同じことだと思っています。なぜそんなにまちどおしくなるのかは僕にも分かりません。しかし、僕の考えからすると、あれ程人がぎわつて、屋台の数も多くてその中で友達と合流できたり、かたぬきで成功し、その喜びを楽しもうと、たくさん人の心に放生会でできた思い出がたまつて自然と放生会に行きたいという気分になつて人がたくさん集まり、人がたくさん来る事を知っているから、屋台の人々も益々やる気を出して、結果的に成功の道へと、屋台の人はもちろん、放生会に来る人全てがルールとマナーを守り成功の道へとつないでいると思います。そして今年もたくさんの方が来ると思っています。僕もその中の一人で、放生会を楽しみたいと思いました。

NPO博多の風のあゆみ

平成	10年9月	任意団体「博多の風」設立 代表:大庭宗一
	同年10月	第1回博多の風フォーラム開催 講師:松本龍氏(衆議院議員)
平成	11年4月	第2回博多の風フォーラム開催 講師:倉田 真氏(毎日新聞編集局長)
	同年10月	第3回博多の風フォーラム開催 講師:沢田幸二氏(九州朝日放送アナウンサー)
平成	12年4月	第4回博多の風フォーラム開催 講師:坂口卓司氏(RKB毎日放送アナウンサー)
	同年5月	大庭宗一と博多の風の仲間たち監修 「山笠の風」出版
	同年5月	同出版記念パーティ開催 NPO(特定非営利活動法人)認証取得 理事長:大庭宗一
	同年6月	NPO博多の風として登記
	同年10月	第5回NPO博多の風フォーラム開催 講師:緒方邦博氏(プランニング秀巧社社長)
	同年11月	山笠交流会館建設提言書、福岡市長へ提出
平成	13年4月	第6回NPO博多の風フォーラム開催 講師:後藤豊彦氏(福岡銀行相談役)
	同年5月	作文コンクール 「第1回 祭り童子集まれ!楽文コンテスト」実施(5/1~7/31)
	同年7月	「NPO博多の風フォーラム」 福岡県21世紀記念事業認証取得
	同年10月	福岡県21世紀記念事業 第7回NPO博多の風フォーラム開催 講師:後藤久義氏(博多祇園山笠振興会会長) 永吉和幸氏(毎日新聞社福岡総局長) 緒方邦博氏(プランニング秀巧社社長)
平成	14年4月	第8回NPO博多の風フォーラム開催 講師:安達一成氏(毎日新聞社記者)
	同年4月	「NPO博多の風ホームページ」開設
	同年5月	第1回 クリーン作戦開催
	同年6月	「探訪!!博多祇園山笠 追山コース」開催
	同年6月	作文コンクール 「第2回 祭り童子集まれ!楽文コンテスト」実施(6/1~9/2)
	同年10月	「NPO博多の風広報誌:風人」発行
	同年11月	第9回NPO博多の風フォーラム開催 講師:高橋慶彦氏(元プロ野球広島東洋カープ)
	同年11月	第2回 クリーン作戦開催
平成	15年4月	第10回NPO博多の風フォーラム開催 講師:永守良孝氏(RKB毎日放送株式会社 取締役)
	同年5月	第3回 クリーン作戦開催
	同年6月	「第2回 探訪!!博多祇園山笠 追山コース」開催 作文コンクール 「第3回 祭り童子集まれ!楽文コンテスト」実施(6/1~9/2)
	同年11月	第11回NPO博多の風フォーラム開催 講師:奥田智子氏(九州朝日放送アナウンサー)
	同年11月	第4回 クリーン作戦開催
平成	16年4月	第12回NPO博多の風フォーラム開催 講師:ウー.C.リー氏(在福アメリカ領事館首席領事)
	同年5月	第5回 はかたの町クリーン作戦(雨天中止)
	同年6月	「第3回 探訪!!博多祇園山笠 追山コース」開催 作文コンクール 「第4回 祭り童子集まれ!楽文コンテスト」実施(6/1~9/2)
	同年10月	第13回NPO博多の風フォーラム開催 講師:富永倫子(RKB毎日放送アナウンサー)
	同年11月	第6回はかたの町クリーン作戦開催
平成	17年4月	第14回NPO博多の風フォーラム開催 講師:松田浩氏(アビスパ福岡監督)
	同年5月	第7回はかたの町クリーン作戦開催
	同年6月	「第4回 探訪!!博多祇園山笠 追山コース」開催 「第5回 祭り童子集まれ!楽文コンテスト」実施(6/1~9/1)
	同年10月	第15回NPO博多の風フォーラム開催 講師:大庭宗一(NPO博多の風理事長)
	同年11月	第8回はかたの町クリーン作戦開催
平成	18年4月	第16回NPO博多の風フォーラム開催 講師:平田大(南島詩人)
	同年5月	第9回はかたの町クリーン作戦開催
	同年6月	「第5回 探訪!!博多祇園山笠 追山コース」開催 「第6回 祭り童子集まれ!楽文コンテスト」
	同年10月	第17回NPO博多の風フォーラム開催 講師:逸見明正
	同年11月	第10回はかたの町クリーン作戦開催
平成	19年4月	第18回NPO博多の風フォーラム開催 講師:中村信喬氏(人形師)
	同年5月	第11回はかたの町クリーン作戦開催
	同年6月	「第6回 探訪!!博多祇園山笠 追山コース」開催 「第7回 祭り童子集まれ!楽文コンテスト」

NPO特定非営利活動法人



〒812-0027

福岡市博多区下川端町8-16 -302

FAX 092-263-7188

E-Mail npokaze@juno.ocn.ne.jp

URL <http://hakatanokaze.jp>

NPO博多の風事業概要

- 博多の町の伝統文化を次世代に引き継ぐ啓発事業
- 「博多の風フォーラム」の定期開催
- 博多の町の地域振興活動
「探訪!!博多祇園山笠 追い山コース」事業
- 博多の町の地域清掃活動「クリーン作戦」事業
- 「祭り童子集れ!楽文コンテスト」事業
- 山笠山台の技術継承活動事業
- 博多祇園山笠振興に関する活性化事業のお手伝い
- 青少年スポーツ振興に関する支援・協力事業

題字:新井光守

